

11 各種齲蝕活動性試験の 臨床的比較（第1報）

○細矢由美子、安藤匡子、
嵩下亜由美、池田靖子、後藤讓治
長崎大・歯・小児歯

齲蝕活動性試験は、齲蝕発生の危険性を予測する上で有効とされている。我々は、齲蝕活動性試験の結果を齲蝕予防に効果的に反映させる事を目的に、各種齲蝕活動性試験の結果と齲蝕発生との関連性について調査を行っている。

今回は、MSBB（ミューカウント：昭和薬品化工株式会社）、RD-テスト（RDテスト“昭和”：昭和薬品化工株式会社）、カリオスタット（カリオスタットTM：三金工業株式会社）を用いた場合の試験結果と齲蝕の現症を中心とした関連性について比較したので報告する。

調査の対象は、長崎大学歯学部病院小児歯科診療室を受診した3歳から17歳6カ月（平均年齢7歳3カ月）の小児100名（男児49名、女児51名）である。

調査方法は、まず、採唾カップ中に被験者の混合唾液を採取し、MSBB並びにRDテストの試料を作製した。唾液採取後の被験者に十分な洗口を行わせた後、カリオスタット試料用の歯垢を採取した。歯垢採取部位は、各被験者の上顎全歯牙の頬面とした。試料の採取方法、齲蝕活動性試験の方法並びに結果の判定方法は、すべてメーカーの指示書に従って行った。

齲蝕活動性試験別に結果を比較したところ、若干の差が認められた。そこで、齲蝕活動性試験結果とd (D)、dmf (DMF)、齲蝕の進行程度（診断名）、歯牙年令、口腔清掃状態、食後経過時間、ブラッシング後経過時間、歯磨材使用の有無との関係について調査を行った。

12 パラチノースに対する意識調査の 結果から（第3報）

○浜野良彦、山口昭一、井槌浩雄、
下飛田道子、小田博
オクト・ピド・グループ（福岡市）

昨年9月、第7回日本小児歯科学会九州地方会大会において、保育園児および幼稚園児の保護者たちに対して、代用甘味料としてのパラチノースに対する認知度、あるいはパラチノース製品の購入経験の有無など、現在のパラチノース製品の普及状況について調査結果を報告した。また、本年5月、第28回日本小児歯科学会において、第2報として一般歯科医と小児歯科医との間に見られる代用甘味料としてのパラチノースに対する意識の違いについても報告した。

今回、福岡市東区にある幼稚園において、3～6歳の小児を持つお母さんたちに対して、「間食」に関するアンケート調査を行った。そして、その子供たちすなわち園児たちのウ蝕診査を含む健康調査結果と、今回のアンケート調査結果との比較を行い、検討を加えた。また、そのアンケート調査の中で、現在、一般市場に急速に普及しつつあるパラチノース含有のお菓子に対して、母親がどのような考えを持っているか、そして、母親と子供がこのパラチノース含有のお菓子を実際に食べて、どのような意見を持ったか興味ある結果を得たので、第3報として報告する。